

法学・行政学コースのカリキュラムについて

(1) 法学・行政学コースの教育目的とカリキュラム

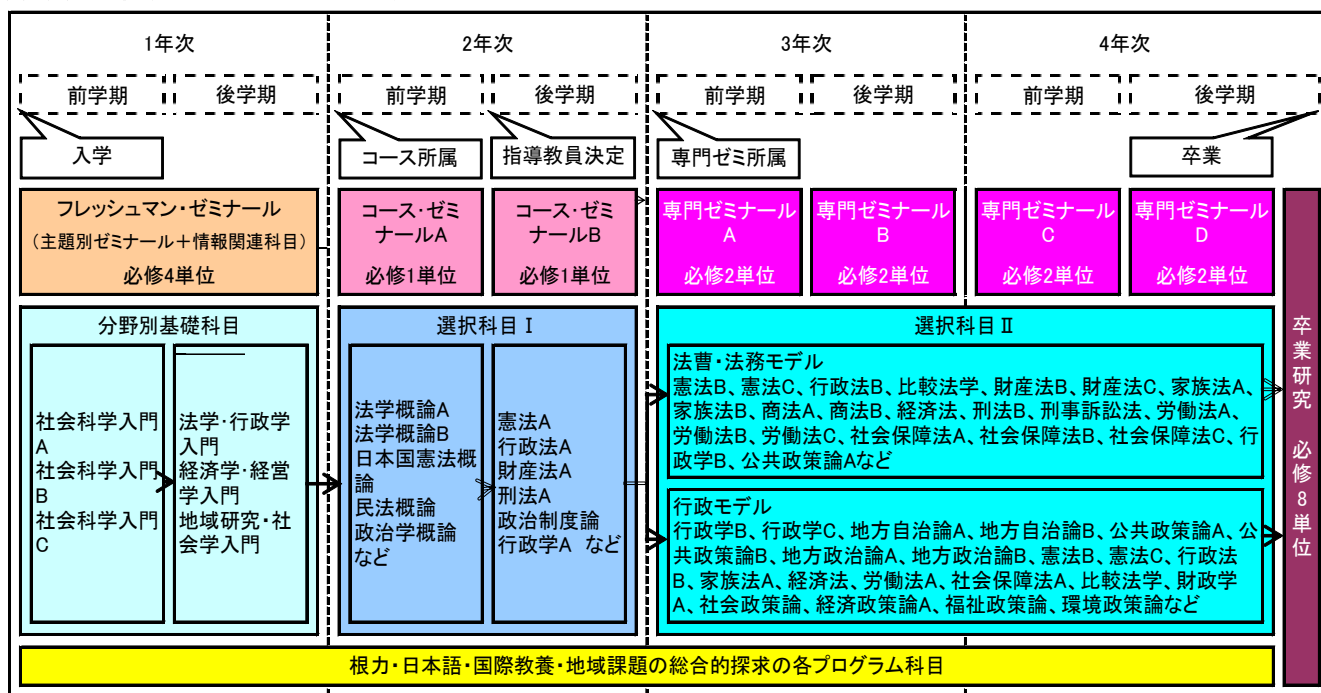
紛争解決や公共サービスについて理論的・実践的に学ぶことにより、政策的思考能力と法的思考能力（リーガルマインド）を同時に養います

コース所属が決まった2年次前学期では、法学概論、政治学概論のほか、日本国憲法概論、民法概論など、法学・行政学の主要の分野を中心に、様々な分野の専門的な知識や考え方を身につけます。専門ゼミナール所属が決まった2年次後学期には、行政法、財産法、政治制度論、行政学など、法学・行政学の様々な分野の専門的な知識や考え方を、バランスよく、かつ順序よく学習していきます。また、前後学期のコース・ゼミナールで、身につけた知識を応用できるよう訓練します。

専門ゼミナールが始まる3年次からは、法学または行政学のいずれかのゼミに所属して、法律中心に学習するのであれば家族法、商法、社会保障法などを、行政中心に学習するのであれば地方自治論、公共政策論、地方政治論などを主に履修しつつ、自分がゼミナールで専攻した分野をさらに広く深く学習します。4年次からは本格的に卒業研究に取り組みます。自分が専攻した分野の専門知識等を応用しつつ、かつ3年次までの法学と行政学の幅広い学習成果を土台にして、特定のテーマに関する卒業論文を完成させることとなります。

卒業生には、法科大学院への進学、司法書士などの資格取得を通じて、あるいは各種公務員や会社員として、これらの能力を活かした活躍が期待されます。

(2) 法学・行政学コースのカリキュラムマップ



※ 3年次以降の2つのモデルは、履修の具体例です。

(3) 法学・行政学コースの学年ごとの達成基準及び対応授業科目表

		達成基準	対応授業科目
1 年 次	前 学 期	① 学科での学修に必要な社会科学の基礎的な知識や考え方を身につけている。 ② 学科での学修に必要な情報の収集・発信、議論などの基礎的な技法を身につけている。	① 社会科学入門 A・B・C ② フレッシュマン・ゼミナール
	後 学 期	① 社会科学の諸分野の概要を説明できる。 ② 学科での学修に必要な情報の収集・発信、議論などの基礎的な技法を応用できる。	① 法学・行政学入門 ② フレッシュマン・ゼミナール
2 年 次	前 学 期	① 法学・行政学の主要の分野を中心に、様々な分野の専門的な知識や考え方を身につけている。 ② 法学・行政学の学修に必要な専門的な技法を身につけている。	① 【選択科目Ⅰ】の諸科目 ② コース・ゼミナール A
	後 学 期	① 法学・行政学の諸分野を中心に、様々な分野の専門的な知識や考え方を身につけている。 ② 法学・行政学の学修に必要な専門的な技法を応用できる。	① 【選択科目Ⅰ】の諸科目 ② コース・ゼミナール B
3 年 次	前 学 期	① 法学・行政学の諸分野を中心に、自らの専門分野に関連する様々な分野の知識や考え方を身につけている。 ② 自らの専門分野に関連する知識、考え方、技法を身につけている。	① 【選択科目Ⅱ】の諸科目 ② 専門ゼミナール A
	後 学 期	① 法学・行政学の諸分野を中心に、自らの専門分野に関連する様々な分野の知識や考え方を応用できる。 ② 自らの専門分野に関連する知識、考え方、技法を応用し、卒業研究の準備に取りかかることができる。	① 【選択科目Ⅱ】の諸科目 ② 専門ゼミナール B
4 年 次	前 学 期	① 法学・行政学の諸分野のうち、自らの専門分野に関連する分野の知識や考え方を応用し、学問的関心を深化させながら、法律や政策をめぐる諸現象を説明できる。 ② 自らの専門分野に関連する知識、考え方、技法を応用し、特定の研究課題についての探究を進めることができる。	① 【選択科目Ⅱ】の諸科目 ② 専門ゼミナール C
	後 学 期	① 法学・行政学の諸分野のうち、自らの専門分野に関連する分野の知識や考え方を応用し、学問的関心を深化させながら、法律や政策をめぐる諸現象を説明できる。 ② 自らの専門分野に関連する知識、考え方、技法を応用し、特定の研究課題についての探究を卒業研究としてまとめることができる。	① 【選択科目Ⅱ】の諸科目 ② 専門ゼミナール D・卒業研究

※「フレッシュマン・ゼミナール」とは、「主題別ゼミナール」と「情報関連科目」を合わせた呼称です。